平和な未来の実現に必要なこと

森岡 音色

「ちいちゃんのかげおくり」を読んだことがあるだろうか。私は小学３年生の時、初めてこの話に出会った。私は当時これを読んで、とても悲しい気持ちになったのを覚えている。

あらすじを簡単に紹介すると「ちいちゃんのかげおくり」は、ちいちゃんという小さな女の子と家族のストーリーだ。お父さんが出征する前の日に、ちいちゃんにかげおくりを教え、家族皆で青空に向かってかげおくりをする。それは家族皆の記念写真のようなものとなった。ちいちゃんとお兄ちゃんは毎日かげおくりをして遊んでいたが、戦争が激しくなり焼夷弾や爆弾を積んだ飛行機が飛び回る怖い空になると、かげおくりはできなくなった。夏の夜に空襲があり、逃げるときにちいちゃんはお母さんやお兄ちゃんとはぐれてしまう。そこから、ちいちゃんはたった１人でわずかな食料を食べては眠る日々を過ごし、ずっと２人の帰りを待ち続けていた。

何日か経って、ちいちゃんは明るい光で目を覚ます。すると、空から家族の声が聞こえ、安心したちいちゃんは空に浮かび笑顔で皆がいるお花畑に向かって走り出す。こうして、ちいちゃんは亡くなってしまう。

当時私は、「戦争でちいちゃんも家族も死んでしまったんだ・・・」と暗い気持ちになるばかりだった。

今思うと、こんなに幼い頃から私自身も“戦争”というものに触れていたんだなあと知った。高校生になった私がもう一度読み返して感じたのは、家族という一番自分の身近にいて、支えてくれる存在がいなくなるというのはとても大きなことであるということだ。まだ幼いのに、急に父がどこかへいってしまうなんて私だったら、わけもわからず泣いてしまうだろう。毎日ごはんを食べさせてくれたり、着がえさせてくれたり、遊びに連れていってくれる母は子どもにとって一緒にいる時間が長く、安心させてくれる存在だと思う。物語の中で、いつも一緒に遊んでくれるお兄ちゃんはちいちゃんを楽しませるだけでなく、いやす存在でもあっただろう。そんなお母さんやお兄ちゃんともはなれて１人ぼっちになったちいちゃんは一気に孤独になったのではないか。それでも、たった１人で２人を待ち続けたちいちゃんはとても強かったのだと私は思う。けれど、ちいちゃんは死んでしまった。これからのたくさんの出会いや楽しいこと、感動することが待っている未来を戦争は奪ったのだ。こんなに幼い子が亡くなってしまったと思うと、今自分が生きていることに深くありがたみを感じる。普段、家族と一緒に過ごして、ごはんを食べる、学校に行く、帰る家があるという“あたりまえ”になっている生活も本当は“あたりまえ”ではないんだなと思った。何不自由なく暮らせている私は恵まれている。それがどんなに幸せなことか、 今回をきっかけにしみじみと感じることができた。

戦争で誰かの命がなくなることは、その人の人生を奪い、同時に周りの人の人生も奪うことになると私は思う。それは人は人と関わりながら生きる、すなわち絶対に傷ついたり、悲しむ人がいるからだ。そんな醜い戦争はなぜ起こるのだろうか。今問題になっているロシアによるウクライナ侵攻について、背景などを知らなかった私は高校教師である父と話し合ってみることにした。「核兵器なんて全ての物を奪うようなの絶対いらないじゃん。」「けど

第2回「核なき未来」オピニオン
U-20の部 最終選考作品

皆攻撃されるのが怖いんだよ。」(確かにそうかもしれない。けれど、疑いあって傷つけあっても何も生まれない。核兵器を使ったら、何もかもなくなって終わりだ。)私はそう思った。最初は社会主義国と資本主義国の違いから始まったという。すなわちロシアとアメリカの考え方の違いである。この 2 つの国はそれぞれのやり方で他の国を支配してきた。長年対立してきたということは、もう一方の考え方を受け入れないと言っているようにもみえる。話し合った結果、とても根本的なことだが、人間の自分が正しいと思っている感覚こそが良くないのではないかと思った。他は間違っているから敵だ。理解できない。おかしい。などと思うことから考え方の違う人間を悪者にし、侮辱したり、傷つけようとしたりする。私達が日常生活をしている中でも、自分の普通は世の中の普通だと思っていることが多くあると思う。けど、それは案外違っていたりする。それが原因でいじめやけんかなど小さな争いが起きる。これが国規模になると戦争に発展するのではないか。だからこそ、現代ではLGBTの理解など他者を受け入れることが求められているのだと思う。このことが実質、一番大切なことである。世の中には様々な人がいる。肌や目、髪の色など見ためから、内気や積極的などの性格、育った環境はもちろん、障がいのある人、持病がある人、お金がない人。それなら、物事における感じ方や考え方も人それぞれ違うはずである。つまり、戦争をなくすために必要なことは他者を受け入れる心や思いやり、考え方は人それぞれだということを理解することだ。個人を尊重しあい、人と人が支えあって生きていく世の中になれば、それは“平和”に繋がると思う。

人は皆、生まれながらに自由に生きる権利がある。しかし、他者の自由まで奪ってはいけない。人々の人生を奪い、何もかも壊してしまう核兵器はなくすべきである。日々生きているこの世界で、私は、争いのない平和な未来の実現を強く願っている。